

仲間と楽しく料理を学ぶ



J A筑紫女性部農業関係グループは12月1日、筑紫野市総合保健福祉センター カミリーヤで「漬け物・大根もち・ごまドレッシング作り講習会」を開き、22名が参加しました。

グループは、野菜・加工品作りの技術向上を目指し、年3回程度の講習会を行っています。今回は、今年度2回目の開講となりました。

当日は、池田委員長が講師を務め、はりはり漬けと大根もち、ごまドレッシング作りに挑戦。参加者達は楽しみながら真剣に受講しました。また、講師へ「いつまで保存ができるの?」「他の材料でも作れる?」などの質問が次々と挙がり、講習会は盛り上がりを見せました。

今後も、グループの活動ではレシピの情報交換など、日頃の生活にも役に立つ内容に取り組む予定です。

太宰府中央支店新装オープン



J A筑紫は12月5日、太宰府市白川でJ A筑紫太宰府中央支店オープン式を行いました。

当日は、J A理事や地元評議員、関係業者など24名が参加。テープカットを行い、新しい店舗で営業を始めました。

新店舗は、2022年6月から工事を開始。太宰府市の街並みに溶け込む店舗をコンセプトに明るく温かい空間を演出した重厚感のあるデザインになっています。

船越専務は「農業と地域を繋ぐ起点になるべく、太宰府中央支店を通して地域社会づくりに貢献していきたいです」と挨拶しました。

記帳について学ぶ・青色申告会



J A筑紫は12月7日、J A本店で簡易簿記や複式簿記を学ぶ「青色申告会記帳研修会」を開催し、会員22名が参加しました。

研修会では、J A審査開発部開発相談課職員が講師を務め、消費税の確定申告の仕組みや青色申告について説明。

参加者は終始真剣な表情で話に聞き入り、詳しい記帳の仕方やインボイス制度などについて質問しました。

J A担当職員は「会員の皆さんの申告をサポート出来るよう、職員一丸となって努力していきたいです」と話しました。

J Aでは、1月16日～20日に管内全5地区の会場で、確定申告に向けた勉強会を開く予定です。

スタンドでマルシェ開催



JA筑紫は、福岡ライフエナジー(株)と共同で12月6日～9日の4日間、「野菜マルシェ」を開きました。

この取り組みは利用者にJAとライフエナジーのことを知ってもらうため、ガソリンスタンドで野菜マルシェを開き、相乗効果を図ろうと企画されたものです。

期間中、春日市のJASS—PORT春日店で、ニンジンや玉ねぎ、ジャガイモなど地元で穫れた新鮮な農産物を1袋100円で販売。また、2000円以上給油をした利用者を対象に、抽選で野菜をプレゼントしました。利用者は「新鮮な農産物を手に取り、安い価格で購入できて嬉しいです」と笑顔で話しました。

太宰府天満宮で農業祭



福岡県の太宰府天満宮で12月12日に、第67回筑紫地区農業祭が行われました。JA理事や管内の農業関係者など約170名が参列。農業の発展と五穀豊穡(ほうじょう)を祈りました。

祭典では、巫女(みこ)による神楽奏上や、参列者の玉串奉奠(ほうてん)などで収穫の礼を尽くしました。

式典では、農業振興に貢献した功労者6名を表彰。笑顔で表彰状と記念品を受け取りました。功労者を代表して大野城市の楠林義治さんが「この受賞は大変励みになります。今日の感激を忘れずに今後もさらに農業に精進していきたいです」と挨拶しました。

JAの白水清博組合長は「歴史ある農業祭を後世に伝えていけるよう、今後も取り組んでいきたいです」と話しました。

組合長らに感謝を贈る



JA筑紫の白水組合長とJA青壮年部は12月15日、春日市立大谷小学校を訪れ、児童たちが開いた「感謝の会」に参加しました。

大谷小学校では毎年、白水組合長らが年間を通して田植えや稲刈りなど米作りを教えています。例年は、10月に収穫した米を児童と組合長らが一緒に味わっていますが、昨年引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響により、同会のみで開催となりました。

組合長らは米作り指導のお礼としてお米の実食動画や楽器演奏を鑑賞し、感想文をまとめた文集を受け取りました。

また、感謝の会後には質問コーナーが設けられ、「お米を作る

時に一番楽しいと思える瞬間はいつですか？」「どのお米の品種が好きですか」などと多くの質問が飛び交いました。

児童は「教えてもらったことを忘れず、農家の皆さんに感謝してお米を食べたいです」と話しました。

白水組合長は「米作りの授業が農業に興味を持つきっかけになると嬉しいです。この経験を忘れずこれからもお米をたくさん食べてください」と笑顔で話しました。

この授業は、5年生を対象とした「総合的な学習の時間」の一環。JAは児童の食農教育をサポートする目的で、20年以上関わっています。

詐欺防ぎ感謝状・牛頸支店



JA筑紫牛頸支店は12月21日、詐欺被害を未然に防いだとして、春日警察署の天津良祐署長から感謝状を受け取りました。

牛頸支店職員の月形さんは11月4日、窓口に来店した女性客がスマートフォン画面を見せながら「サイトの会員になるにはガイドブックを購入するよう言われたため、振り込みたい」などの話から不審に思い、支店長に報告。その後、インターネットで検索したところ詐欺サイトの疑いとの情報があり、警察へ通報。被害の未然防止に大きく貢献しました。

天津署長は「身近なところに詐欺は潜んでいるため、今回は未然に防ぐことができ良かったです。協力に感謝したいです」と感謝を述べました。

月形さんは「お客様の大切な財産を守ることができて良かったです。今後も注意を払っていきたいです」と話した。

JAでは、15年に「二セ電話気づかせ隊」に登録し、急増する詐欺被害を未然に防ぐために注意喚起や啓発活動に取り組んできました。今年7月には、福岡県庁で開かれた二セ電話気づかせ隊推進委員会で団体表彰を受けました。また、8月には、二セ電話詐欺の未然防止で春日警察署かJA光支店が表彰を受けるなど、地域貢献活動を積極的に展開しています。